

発注動向調査結果

-2012.8-

- 調査時点 平成24年6月調査（平成24年6月末時点）
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎（3、6、9、12月末時点）
- 回答企業 65社（回答率：43.3%）

<業種内訳>

プラスチック	12社
鉄鋼・非鉄	7社
金属製品	6社
一般機械器具	12社
電気機器	12社
輸送用機器	9社
精密機器	5社
縫製	2社
計	65社

DI (Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

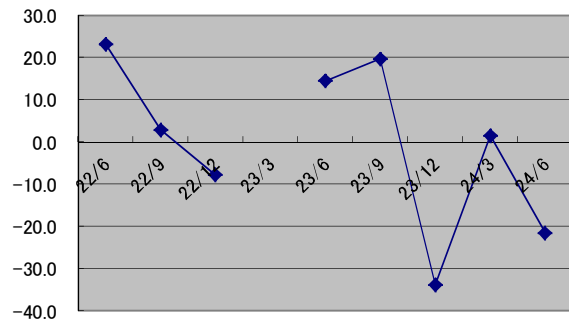
生産高（対3ヶ月前比）DI

大幅悪化し、厳しい業況がうかがえる

【概況】

生産高（対3ヶ月前比）DIは▲21.5となり、前回の1.5から23.0ポイント減と大幅に悪化した。24/3月期は北米や新興国向けの自動車、新興国向け鉱山機械が好調な建設機械の伸びが要因となり、大幅改善を見せた。今回は自動車については堅調に推移しているものの、好調だった鉱山用建設機械の伸びが鈍化し、工作機械や装置関連の生産高が減少したことが要因となり大幅悪化となった。

生産高(3ヶ月前比較)DI



	(年/月)	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6
生産高(対3ヶ月前比)DI		23.2	2.9	▲ 7.8 (未調査)		14.5	19.7	▲ 33.8	1.5	▲ 21.5

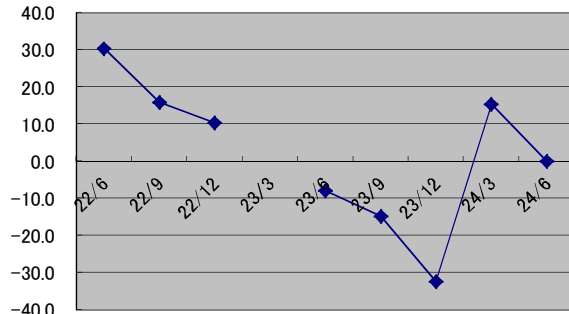
生産高（対前年同月比）DI

大幅悪化するも、マイナス水準に転落せず

【概況】

生産高（対前年同月比）DIは0.0となり、前回の15.4から15.4ポイント減と悪化した。昨年6月は、東日本大震災による被害から復旧し、多くの企業が立ち直りを見せていた時期であるが、震災前の水準に戻っていない企業も少なくない状況であった。1年が経過し、震災の影響は薄れつつあるものの、依然として円高が続いていることが今回の結果の要因の一部と考えられる。

生産高(前年比較)DI



	(年/月)	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6
生産高(対前年同月比)DI		30.4	15.9	10.4 (未調査)		▲ 7.9	▲ 14.8	▲ 32.3	15.4	0.0

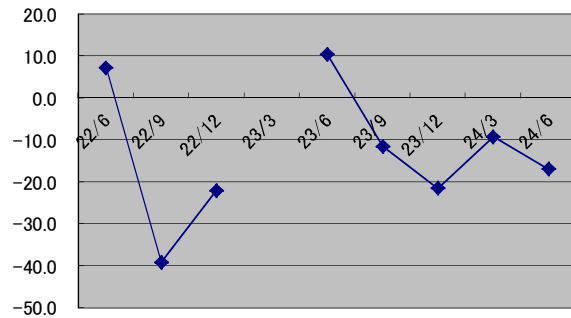
3ヶ月先見通しDI

依然として先行きに対する見方は厳しい

【概況】

3ヶ月先見通しDIは▲16.9となり、前回の▲9.2から7.7ポイント減と悪化となった。
 前回から悪化し、DI値も4期連続でマイナスであり、景気の不透明感が続いている。依然続く円高、今夏の電力不足問題、欧州問題の不透明感、エコカー補助金終了後の反動減の見通しなどが景気に悪影響を及ぼすと懸念されている。

3ヶ月先見通しDI



	(年/月)	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6
3ヶ月先見通しDI		7.2	▲ 39.1	▲ 22.1	(未調査)	10.5	▲ 11.5	▲ 21.5	▲ 9.2	▲ 16.9

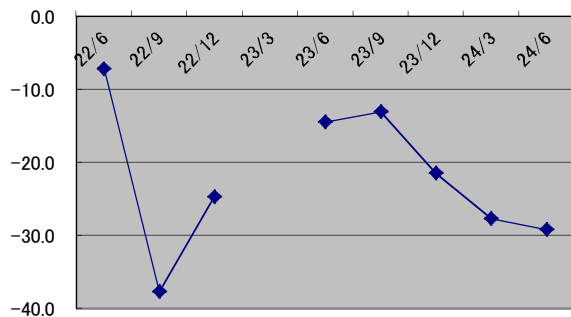
外注見通しDI

海外生産移管の進行により、3期連続での悪化

【概況】

外注見通しDIは▲29.2となり、前回の▲27.7から1.5ポイントの悪化となった。
 依然続く円高の影響で大手発注企業を中心に生産の海外シフトが加速している。また、生産の現地化も進んでおり、国内の外注取引環境はこの先も厳しい状況が続くものと予想される。

外注見通しDI



	(年/月)	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6
外注見通しDI		▲ 7.2	▲ 37.7	▲ 24.7	(未調査)	▲ 14.5	▲ 13.1	▲ 21.5	▲ 27.7	▲ 29.2